

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月26日(火)

《神の国を作る種 - 1人1人の小さな振る舞いや言葉 - 》

ある会社で、新入社員の採用試験が行われました。試験の当日には、たくさんの受験者が集まりました。試験官は、「皆様、今日のご苦労様です。よい結果が出るように頑張ってください。今日は筆記試験の日なので、白い紙とボールペンを配りますから、会社の指示する内容の文章を書いてください。」と言いました。そして試験問題として示されたのは「原稿用紙にこの会社の広告としてふさわしい文章を書きなさい。」というものでした。受験する人々は、“そんなに難しくない問題だ”と思い、一生懸命に書きました。そして、“こんなに簡単な問題ならば、全員合格させようという会社の考えではないか”と思いました。

試験結果が発表される日、受験者がその会社に行ってみると、合格したのは1人だけでした。なぜ、1人だけ合格して、他の人は全員落ちてしまったのでしょうか。試験問題は、会社の広告を書くことでした。誰でも書けるものです。それなのに1人しか合格しなかったのは、なぜでしょうか。私はわざと早口で試験問題を話したのですが、そこに落とし穴があります。1人を除いて受験者全員が試験に落ちたのは、問題にふさわしい答えをしなかったからです。もう一度試験問題を思い出してください。白い紙とボールペンが配られたのに、出された問題は、『原稿用紙』に、会社の広告を書きなさい。」というものだったのです。試験に合格した1人だけが、「原稿用紙はどこにあるのですか。」と質問し、原稿用紙に書いたのです。他の人は、募集広告のことで頭がいっぱいになってしまい、配られた白い紙に書いてしまったのです。その会社は、そのような小さなことさえ、きちんと聞ける人を選んだのです。これは実際にあった話だそうです。

さあ、今日の福音(ルカ 13:18-21)では、イエス様が「神の国を何にたとえようか。」とおっしゃり、「からし種」と「パン種」のたとえ話をなさいましたね。私達が自分自身でも見過ごしてしまうような小さな振る舞い、小さな言葉が集まって、神様の国を作る種になるのかもしれない。しかし私たちは、24時間の中のいろいろな思い、考え、振る舞い、言い方、そういうことをあまり大事にしないで、思いつくままに行動に表してしまう場合がほとんどでしょう。そういう意味で、振る舞い、考え、言葉を慎重にする必要があると思いました。

そしてもう一つは、信者である私たち一人一人が、模範的な言葉や振る舞いを見せられれば、一つ一つは小さくても、その振る舞いや言葉が集まって、神様の国を見せる役割を果たすのかもしれない、ということです。そしてそれによって人々が御国を望みながら、求めながら、集まるのではないかと思います。

今日の福音を通して、私達には役割があることを意識しながら、このミサを捧げましょう。

ありがとうございました。